

4. 河川

(1) 基本的な考え方

河川は、周辺と一体となった眺望が得られることや、遊歩道やオープンスペースが市民の散策や憩いの場として親しまれるなど、潤いのある空間を市民に提供するとともに、市街地や里地を構成する景観要素となっています。

そのため、河川の整備においては、堤防敷からの眺めを大切にし、潤いのある景観がえられるよう努めることが重要となります。

(2) 景観形成の方針とチェック事項

構想段階

- ✓ チェック 1: 景観形成方針を踏まえ、目指すべき施設の景観像を検討しているか？ (P43)
- ✓ チェック 2: 周辺の景観に対する影響を検討しているか？ (P43)
- ✓ チェック 3: 隣接地との連携による一体的な整備や良好な景観要素の活用を総合的に検討しているか？ (P43)



設計・施工段階

方針① 河川構造物等は、周辺の自然景観と調和する形態・意匠及び色彩とする。

- ✓ チェック 1: 自然の地形や水の流れを尊重した河道としているか？ (P44)
- ✓ チェック 2: 河川構造物や付帯施設は、水辺や緑を引き立てるデザインとするよう心がけているか？ (P44~46)

方針② 河川が良好な視点となる場合は、視点の場を快適な空間として整備し、適切な管理に努める。

- ✓ チェック 1: 水辺に親しめる一体的な空間づくりに努めているか？ (P47)
- ✓ チェック 2: 視対象を阻害しないよう配慮しているか？ (P47)
- ✓ チェック 3: 快適な視点の場となるよう工夫しているか？ (P48)

構想段階

✓ チェック 1 景観形成方針を踏まえ、目指すべき施設の景観像を検討しているか？

- ① 現地を踏査し、周辺環境や地域特性の把握に努める。
- ② 計画の対象とする河川が景観計画に定める景観ゾーン・景観拠点・景観軸のどこに該当しているかを確認し、その方針を踏まえた景観整備の構想等を立てる。

✓ チェック 2 周辺の景観に対する影響を検討しているか？

周辺特性

- ① 河川内や周辺に保全または活用すべき眺めや景観資源があるかを確認する。

連続性

- ② 周辺の景観とのつながりに配慮した緑の配置を検討する。
 - ▶ 里地における護岸整備では、周辺の自然景観との調和を図るために、安全性を検討した上で、できるだけ自然になじむような整備に努める。



▲河川の分流地点を視点場としている。【①】

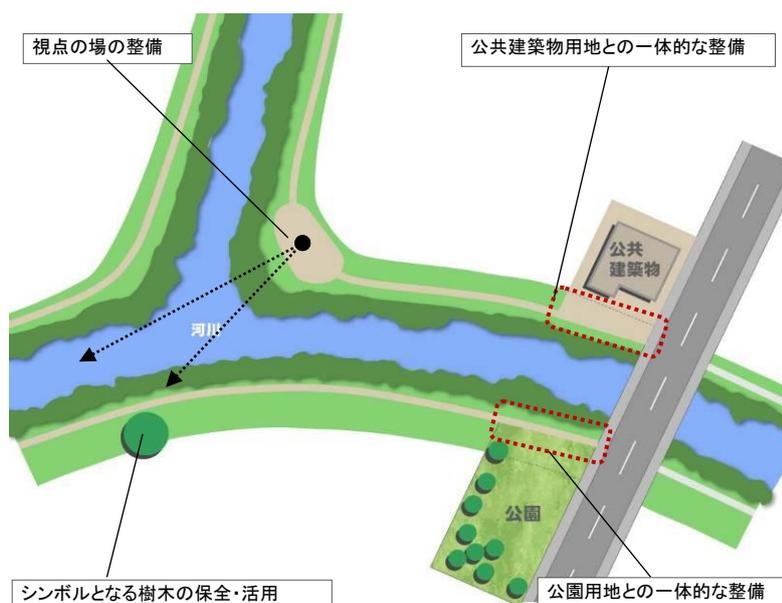
✓ チェック 3 隣接地との連携による一体的な整備や良好な景観要素の活用を総合的に検討しているか？

ゆとりスペース

- ① ゆとりを感じさせる景観を形成するために、他の公共施設と隣接する場合は、一体的な整備ができないかを検討する。

眺望

- ② 地域の特徴的な景観が得られる場所では、快適なスペースの確保や各種の要素の適切な配置を検討する。



▲河川沿いの公園と一体的な空間としており、ゆとりのある景観が創出されている。【①】



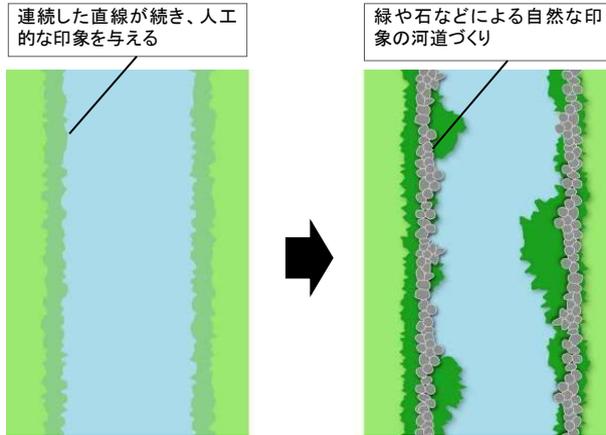
▲公園との一体的な整備により、河川への良好な眺望を確保できる場所に築山が設けられている。【②】

方針① 河川構造物等は、周辺の自然景観と調和する形態・意匠及び色彩とする。

√ チェック 1 自然の地形や水の流れを尊重した河道としているか？

水際線

① 直線的な水際が続くと人工的な印象を与えやすいため、水際に植栽や石材を設けるなど、やわらかで自然な印象となるよう工夫する。



▲水際の形状に変化を与えることにより、やわらかい印象となっている。【①】



▲水際や護岸部に水生植物の植栽や石材を設けることで、人工的な印象をやわらげている。【①】



√ チェック 2 河川構造物や付帯施設は、水辺や緑を引き立てるデザインとするよう心がけているか？

護岸(表面処理)

① 人工的な印象となりやすい護岸や法面は、周辺と調和するよう表面処理を工夫する。

- 緑や石材などの自然素材を活用し、水辺との調和を図る。
- 垂直護岸を整備する場合は、「親水空間」や「橋詰め」、「休憩スペース」、「河川へのアプローチ部」から眺められる範囲で護岸部への緑化用ブロックや下垂性植物を施すことにより、潤いづくりや圧迫感の軽減を図る。



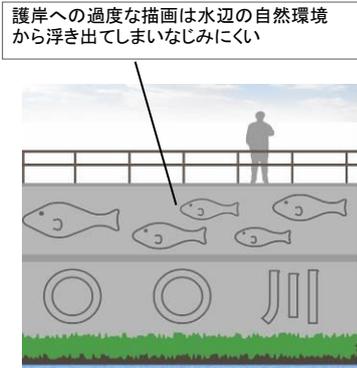
▲垂直護岸をつる性植物で緑化することで、人工的な印象を和らげる工夫がされている。【①】



▲水辺と調和するよう自然型護岸となっている。【①】

護岸(装飾)

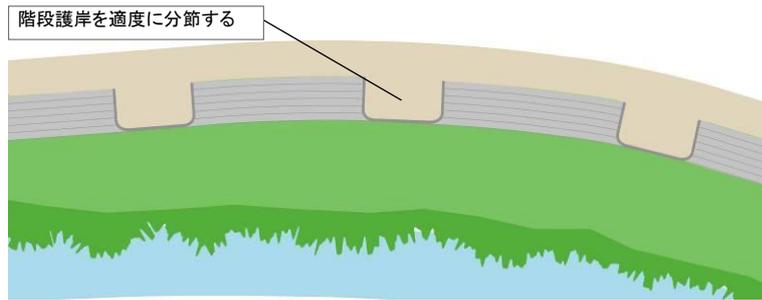
- ②護岸部に絵や文字等を過度に描画することは、周辺から浮き上がり、自然景観と調和しにくいいため避ける。



▲護岸部への過度な描画は周辺景観から浮き出てしまうため避ける。【②】

護岸(分節)

- ③階段式護岸が長い区間にわたって連続すると人工的な印象が強くなるため、適度に分節してなじませる。
- 坂路・溜り空間の設置等により分節を図る。

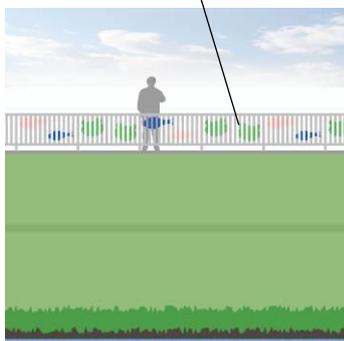


▲階段護岸が単調とならないよう、節目となる部分に溜まり空間が設けられている。【③】

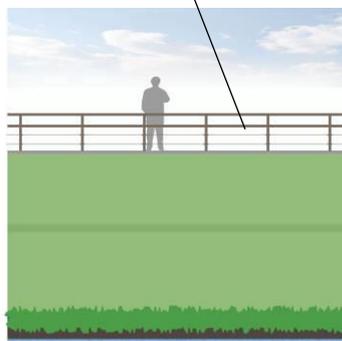
防護柵

- ④転落防止柵等は、良好な河川への眺めを阻害しないデザインに努める。

転落防止柵への過度な描画は、眺めを阻害し、周辺と不調和となる場合がある



良好な河川が引立つよう落ち着いた色彩のある色彩や見通しを考慮したデザインに努める



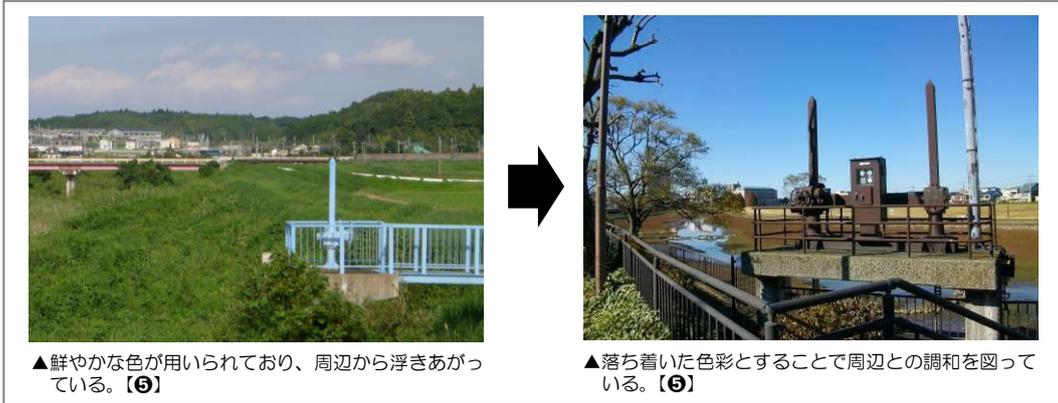
▲河川景観に配慮し、落ち着いた色彩の転落防止柵と街灯が設置されている。【④】



▲歴史資源への景観に配慮し、防護柵の形状と色彩を工夫している。【④】

水門等

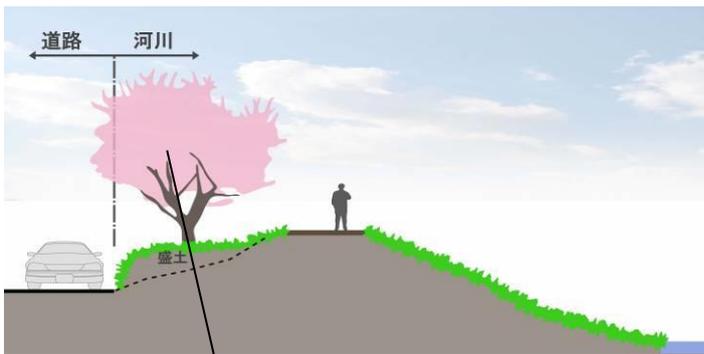
⑤ 水門、樋門、樋管等の施設は、自然環境から浮きあがりやすいため、形態・意匠、色彩を工夫し修景を図る。



花木

⑥ 河川沿いの緑化等により、周辺と調和した魅力的な河川空間を創出する。

- 愛着のわく河川景観を演出するため、場所により、河川沿いに季節感を演出できる樹種を植栽できないか検討する。
- ランドマークとなる樹木の保全や節目（合流部、分流部、橋梁等）となる場所への植樹に努める。



季節感を演出する樹木の植栽



▲河川兩岸の桜堤が季節感を演出している。【⑥】



▲河川にかかる橋梁の橋詰に高木を植栽し、周辺から橋の位置がわかりやすいよう工夫されている。【⑥】



▲河川沿いに桜を植栽している。【⑥】

方針②

河川が良好な視点となる場合は、視点の場を快適な空間として整備し、適切な管理に努める。

✓ チェック 1

水辺に親しめる一体的な空間づくりに努めているか？

親水性

① 河川空間は、潤いや安らぎを提供する場となるため、水に親しめるような場づくりに努める。

- 緩傾斜護岸や、水辺へ近づくことができる階段やスロープの設置を検討する。
- 安全性を確保して、八つ橋や飛石の設置を検討する。
- 舗装の色彩や柵などの位置・色彩に配慮する。



▲八つ橋を渡し、対岸への行き来ができるようにするとともに、親水性に配慮されている。【①】



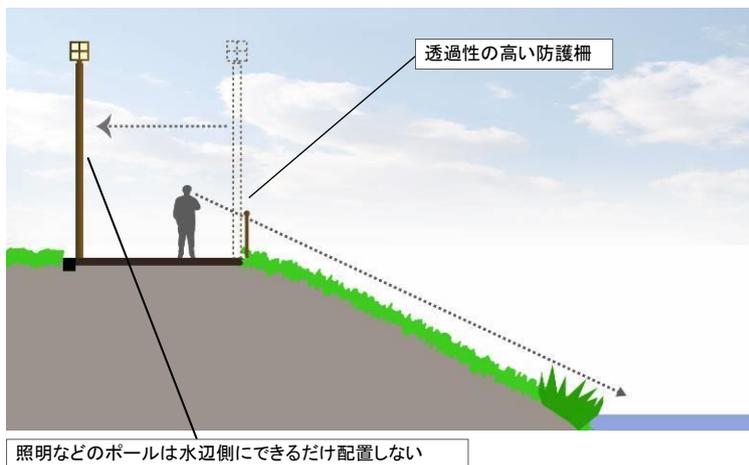
▲水辺に近づきやすいよう階段とスロープが設けられている。【①】

✓ チェック 2

視対象を阻害しないよう配慮しているか？

視点の確保

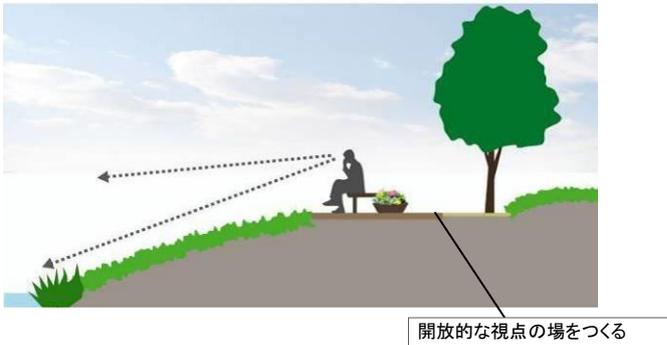
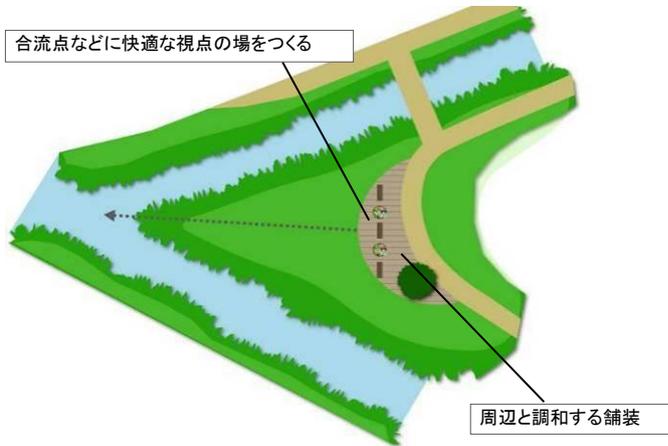
① 河川への視線を阻害しないよう、防護柵等は安全性を確保した上で、透過性のある部材の選定を図る。



✓ チェック 3 快適な視点の場となるよう工夫しているか？

快適さの確保

- ① 歩行者等の利用が多く、良好な河川景観が眺められる場所では、ベンチ等の休憩施設の設置に努める。



- ② 視点の場を快適にするため、適切な管理に努める。



▲河川堤防に置かれた休憩施設。良好な視点場として、周辺の除草など適切な管理が求められる。【②】



▲河川への良好な眺めを確保するために、盛土の上にベンチが設置されている。【①】



▲開放的に眺められる場所にベンチを設置している。【①】



▲草花に囲まれた快適な視点の場となっている。舗装の色が周辺から浮き出ているため、周辺の自然と馴染む色としたい。【①、②】



▲堤防を快適な歩道として整備する。【②】

